

中学生の自己有用感を向上させる教育的アプローチ

学籍番号 219222
氏名 星見頼彦
主指導教員 平井美幸
副指導教員 岡田和子

第1章 緒言

H中学校が独自に行ういじめアンケート調査の結果からは、「教員の働きかけにより生徒の自己有用感を向上させる」ということが、重要な教育課題として捉えられた。生徒指導は、これまでの歴史的変遷から、その意義や目的の根幹が引き継がれていることに加え、より子ども個々への個別指導の必要性が高まっているとみられた。一方で、生徒指導における教員の力量形成は、経験豊富な先輩教員から経験の少ない若手教員へと知識・技能が伝承されていることで力量の向上が図られてきたが、経験の浅い教員の増加により、その力量の伝承がうまく図られていないことが指摘される。学校組織におけるミドルリーダー教員には、自己の力量のさらなる向上に加え、同僚教員との連携協働を通じて、その力量を継承していくことが求められる。

そこで、本教育実践研究は、中学校におけるミドルリーダー教員としての力量形成および役割に示唆を得るために、生徒指導上の個別指導における中学生の自己有用感を向上させる教育実践をモデル化し、その有用性を評価することを目的とした。

第2章 生徒の自己有用感を向上させる働きかけの検討

ミドルリーダー教員の教育実践を省察することから、生徒指導上の個別指導場面における中学生の自己有用感を向上させる教員の働きかけについて明らかにすることを目的として、プロセスレコードを用いてミドルリーダー教員の教育実践を質的記述的に分析した。

その結果、中学生の自己有用感を向上させる教員の働きかけとして、①平常時の生徒との肯定的なかかわりと教職員の情報共有による多面的な生徒理解が個別指導の前提となること、②適切な働きかけを行うためには、生徒の心情への共感的理解による生徒理解からの働きかけの模索が必要であること、③生徒の自己有用感へ教員が働きかけるには、生徒の肯定的評価を査定し、生徒への肯定的評価の示し方の検討が必要であること、④生徒の自己有用感を向上させる教員の働きかけとして、生徒の肯定的な行動を教員が言語化して肯定的評価を伝達することが必要であることの4つの示唆を得た。これらの示唆から、ミドルリーダー教員の個別指導の教育実践を根拠あるものとしてモデル化（個別指導モデル）に至った。

第3章 中堅以下のキャリアステージにある教員への個別指導モデルの伝達

中学生の自己有用感を向上させる教員の働きかけ（個別指導モデル）について、校内研修会を実施して中堅以下のキャリアステージにある教員へ伝達する教育実践の一考察を目的に、校内研修会を企画、実施して、そのワークショップ（協働）での教員のワークシートの記述から個別指導モデルの伝達と受講した教員のその理解について考察して校内研修会の評価を行った。

自己有用感と個別指導モデル自体の理解については、ワークショップ（協働）とリフレクション（省察）を設定していなかったため検討できていないといった課題はあるが、教員のワークシートの記述からは、個別指導モデルの実践を行うためのポイントが理解されたと考えられ、教員の生徒理解の共通認識を深めることと生徒指導上の個別指導における自己有用感の向上させる教員の働きかけの理解を目的とした校内研修会は、概ねその目的は達成できたと考えられた。

第4章 個別指導モデルの有用性の評価

個別指導モデルを用いて教育実践に取り組んだ中堅以下のキャリアステージにある教員の語りから、個別指導モデルの有用性を評価することを目的として、個別指導モデルの評価をインタビュー調査し、質的記述的に分析した。

個別指導モデルを実践した中堅以下のキャリアステージにある教員の語りから、個別指導モデルは、生徒との関係性を構築する教員の態度を基盤として、①生徒の状況と心情の理解する、②生徒に合わせて肯定的にかかわる、③集団における生徒の前向きさや自発的な行動を引き出す、という教員の働きかけが生徒の自己有用感を向上させることに有用といえる示唆を得た。

第5章 成果及び課題

ミドルリーダー教員は、生徒指導のその力量形成において、理論と実践の往還から、これまで行ってきた教育実践を同僚教員に提示できる根拠あるものとする必要があることが示唆されたと考えられた。また、経験の浅い教員や中堅以下のキャリアステージにある教員が生徒指導における力量形成を図っていくうえで、ミドルリーダー教員は、根拠ある教育実践を示し、同僚教員がこれまでの実践と重ね合わせたり、実際の場面を想像したりして理解できるような教員研修を企画、実施して、その教育実践を継承していく中心的な役割が求められることが示唆されたと考えられた。

しかし、明らかにされた教員の働きかけに偏りがある可能性があること、校内研修会の評価に受講した教員からの直接的な研修の評価が反映できていないこと、個別指導モデルの有用性の評価をキャリアステージや教職経験の違いから検証すること、個別指導モデルによる教員の働きかけにより実際の生徒の自己有用感の変容を検討する必要があることが課題として挙げられる。

第6章 結論

ミドルリーダー教員が行う個別指導における中学生の自己有用感を向上させる教育実践を根拠ある個別指導モデルとして明らかにしたうえで、その個別指導モデルを伝達する校内研修会を企画、実施する実践を行い、個別指導モデルを実践した中堅以下のキャリアステージにある教員の語りからその有用性が評価されたことで、ミドルリーダー教員の力量形成及びその力量を伝達、継承していく方策の1つとなる実証された実践的知見を得ることができた。

この知見が、中学生の自己有用感を向上させる教員の働きかけとして、教員の生徒指導における力量形成の一助となることが期待される。